

令和元年度 第70回東京都中学校連合演劇発表会

保健室でティータイム

世田谷区立 烏山中学校演劇部

作 彼ノ矢 恵美

【キャスト】

丸田

鶴本

木下

西宮

東堂

星野

杏子

【 第一幕 】

保健室。舞台上にベッド、パーテーション、テーブル、椅子、机、棚がある。棚に大きな折り鶴がある。誰もいない。しばらくして男子生徒の星野登場。

星野 先生く。

先生が見当たらない。

星野 ……あのお。

丸田 （裏から）ん？ああ、どうも。

星野 （驚く）教室で朝学活してる時からお腹が痛くて。

丸田 ほう。そこ座って。（星野を椅子に座らせてから）ぐるぐる？

星野 ……ぐるぐる？

丸田 じゃあちくちく？

星野 ち、ちくちく？？…さつきから何言ってるんですか？

丸田 保育園児には、これでお腹の痛みを聞くのさ。

星野 保育園児と一緒にしないでください。

丸田 あ。わかった！これなら痛みを伝えやすいでしょ。

（ボタンの付いた機械を取り出す）説明する時にこのボタンを押せば、効果音が出る。例えば、「先生く今このあたりが」

S ・ 効果音

丸田 「（痛そうな顔）痛いですう」って。

星野 意味わかんないですよ。だったら普通に言います。
丸田 「ここが」

S
・
効果音

星野 いや、効果音で遊びたいだけでしょ！もういいです！

丸田 はは。思ったよりも元気そうじゃん。お腹から声出てるし。

星野 それは先生がずっとふざけてくるからでしょ。

丸田 ふーん。まあいいや。紅茶飲む？

星野 え……。いいんですか？

丸田 はい。（紅茶の入ったカップを渡す）

星野 （一応頭を下げる）

不思議なティータイム。星野ちよつと落ち着く。

星野 ……保健室の先生って女の子の人だと思ってた。

丸田 男の先生だっているよ。まあ少ないけどね。名前は？

星野 です。

丸田 病状なんだっけ？あ、サボりか。

星野 サボってません。病人ですよ。だから教室行かないで、ここに来たんですから。

丸田 へー。そうだったのー。さっき僕にこう言ったよ。

「教室で朝学活してる時からお腹が痛い」って。

星野 ……あっ。

丸田 朝学活出てないじゃん。それに今何時？

星野 （時計をみる）

丸田 ずっと学校のどっかにいたの？
星野 ……（頷く）

S ・ チャイムの音

丸田 お、休み時間だ。

星野 （不安げに）先生、僕もう少しここに……。
丸田 ほら。

先生はそう言いながら、ベッドのカーテンを開けてあげる。

星野 ……ありがとうございます。

丸田 じゃあ俺が子守唄うたってやるよ。
星野 結構です。

杏子 誰かと話しながら登場。タイミングよく先生はカーテンを閉める。

杏子 じゃタマあとでね！ばいばい。（ドア閉める）丸田先生やつほ〜
丸田 やつぱり来たな。

杏子 へ。あれえ？今日来る人少ないんだね。

丸田 健康である証拠でしょ。
杏子 じゃあ空いてるベッドにうちも寝よつかな。

丸田 おいおいここは家じゃねーぞー。寝に来たなら教室戻れー。
杏子 やだやだやだー。（テーブルにあるカップを見て）

あ、先生また紅茶飲んだでしょう。うちも飲みたーい。

丸田 飲みたきや勝手に飲め。

杏子 わーい♪

杏子はカップに紅茶を入れてテーブルに持ってくる。手慣れたる。

丸田 で、今日は何よ。

杏子 まあまあ。まずは飲もうよ。

不思議なティータイム。

杏子 はあ。美味しい。

丸田 今日も元気だな。

杏子 元気じゃないよ。次の授業、班新聞作るんだけどメンバーがマジ無理。

丸田 メンバーって誰いるの。

杏子 うち、荒川、隅田、タマ、安達、ちよーさん、

丸田 タマって今一緒に来た玉城でしょ？親友がいるならいいじゃん。

杏子 …いや、あんな親友じゃないから。

S ・ チャイムの音

丸田 あー、結局授業出ないのね。

杏子 だつてタマ意味わかんないんだけど。今まで一緒にいたのに最近になつて

隅田とかちよーさんとよく話しててさ。ずっと話すから、うちは待つてんの。待つてあげてんのに、ごめんも何もないんだよ。

丸田 そこに杏子も混ざればいいじゃん。

杏子 混ざったって気まずいし、話しついてけない。

丸田 それで向こうの話が終わるまで待つてんの？ 臆病だなあ。

杏子 そんなんじゃないし。

丸田 次の授業で、独りぼっちになるのが嫌だからここに来たってか。

杏子 イエス、

丸田 おいおい。

杏子 はは。(紅茶飲む)・・・中学生になったら、こんなに変わっちゃうんだなあ。

一緒にいても、向こうが何考えてんのか全然わかんないし。隅田たちも・・・
どうせ変な奴だと思われてんだろなあ。

丸田 ふーん。

杏子 だつてそういう目で見てくるもん。向こうで話してる時、タマこっち

チラチラ見てくるしさ。絶対そうだよ。私がなんかしたならはつきり言えし。

私ばつか我慢して向こうだけ楽しんでるとかなに。マジあいつら面倒くさ。

もうタマのことなんかどうだつていいし。

星野

・・・。

丸田、勢いよく立ち上がる。

杏子 っ！なに！

丸田は、ボタンを持って杏子の前に置く。

杏子 なにこれ。

丸田 今から俺が言う質問に答えろ。答えられない時は、そこに書いてある
気持ちの効果音を選んでボタンを押すこと！まず第一問。

杏子 ちよつと急になに。

丸田 なぜ苛立つ原因の玉城と、今日一緒に保健室に来たんですか？

杏子 ……向こうから声かけてきた。

丸田 第二問！そのときどんな気持ちでしたか？

杏子 ……。

丸田 質問を変えよう。玉城が隅田のところへ行くと、どんな気持ちですか。

杏子 ……。

丸田 ボタン！分からなかったらボタン押すんだ！

杏子、ボタンの説明書きを読み。選んだボタンを押す。

S ・ ガラス

杏子 ……ガラス？

丸田 ガラスが割れるように心が痛むつてか。

杏子 先生またふざけてるでしょー。こんなどこで買ったのお。

丸田 これは、杏子の気持ちを確かめる為にやってるんだよ。

俺からしたら隅田達のことはどうだっていいの。

大事なのは、お前の本当の気持ちだよ。

杏子 ……ふうん。

丸田 もし玉城たちが自分の事を話したら、正直どう思うんだ？

杏子 ……。

S ・ ガラス

丸田 玉城が親友じゃなくなったらお前はスッキリするか？

杏子 (ボタンを押そうとするが、躊躇する)

丸田 親友を手放すなんて簡単だよ。その代わり、もう戻れなくなる。それでもいいの？

杏子 ……わかんないよ。わかんないよもう。

星野、カーテンを思いっきり開けて二人の前に登場。

星野 先生！

丸田 なんだよビックリした。

杏子 星野…カーテン越しに聞いてたの？

星野 ごめんなさい。でも言わせてください！僕、杏子さんの気持ち分かります！

杏子 は？

星野 実は僕…ゲームが大好き！ゲーオタです！

丸田 俺もーっ！★なんのゲームが好きなの？

星野 それは置いといて…昨日、大好きなゲームのイベントにお母さんと

行ってきたんです。イベントが終わって会場を出たら…

クラスの人に会ってしまったんです。お母さんと一緒に来たなんてことが

クラス中に広まったら恥ずかしくて…周りの目が気になって教室に

入れなかつたんです。だから！

星野はボタンを奪う。

星野 その時の僕の気持ちはこれです！

S
・ガラス

星野は何度も繰り返し、強く、ボタンを押す。

丸田 おいおい壊れるよ。……ま、壊れてもいいつか。

星野 相手にどう見られてるかなんて……怖い。怖いに決まってるじゃん！

寂しいよ！

だから杏子さんが感じてることは……正しいんです！

杏子 星野……。

丸田 なあに勝手に良い話にしてんだ。お前ら一つだけ何か勘違いしてないか？

2人 ……？

丸田 実際に周りから、何か言われたのか？言われてもないのに怖いなんて

それはお前らの考えすぎ。自分で作り上げた恐怖にすぎないんだよ。

だつて向こうが……

丸田 もし。隅田が玉城に、お前と仲良くなりたいつて言つてたとしたら？

杏子 ……そんなこと……。

丸田 気持ちがよく分かるよ。でもさ、相手が何思ってるかなんて誰も分からないし、

気にしだしたらきりないよ。星野、何でその会場の外でクラスメイトに

会つたと思う？よく考えてみる。

……あ。

星野 それがきっかけで、そいつと友達になれるかもしれないんだぞ。

丸田 僕の好きなキヤラの袋持つてた……！

星野 周りを基準にしないでもつと堂々と生きてみなよ。

もしそこで苦しくなつたらまずは自分に優しく問いかけてみ。

「おい。大丈夫ですかー」つて。

星野 優しく……。

丸田 杏子もさ、玉城がお前のとこに来てくれた時、本当は嬉しかったんじゃないの。

杏子 ……（頷く）

丸田 感情に任せて取り返しがつかなくなる前に寂しいなら寂しいって、相手に言ってもいいんだぞ。杏子の親友なんだから。

杏子 ……うん。

丸田 ……まあそんな簡単に出来たら苦労しないんだけどね。

杏子 先生え。急になげやりにならないでよ。今せっかく感動したのにい。

丸田 中学生になったんだから、もつと楽しいことしようぜ。
中学校生活なんてあつという間に終わるんだからさ。

と、話しながらすごい派手なジャケットを着る。

星野 まって何してんの！

丸田 え？俺の仕事着。

星野 仕事着ーっ？！

丸田 これが俺の生き方 ♪

さつきよりも穏やかな空気で。

暗転

【 第二幕 】

■ 厳格そうな体育教師。木下が下手から登場。

木下 次は体育館でダンスだから、係は手分けして準備するように。ダラダラしない。

木下は腕時計を見てから、その場を退場。

■ 数日後の保健室。丸田が座って読書している。木下が登場。

木下 失礼します。

丸田 ん？ ああ。

木下 …… 丸田先生！ 先生え先生えっ、先生くっ！

木下泣きながら丸田のこへダッシュ、丸田は避ける。木下転ぶ。

木下 うう…何で避けるんですかあ。

丸田 またしようもない弱音を聞くのかと思つたら体が勝手に。

木下 丸田先生どうしましょう。次の授業内容がダンスなんですけど…

私は全く踊れないんです！

丸田 ほう。じゃあテンポに合わせてボックスをしてみましようか。

丸田が手拍子をする。木下ボックスをするが全く出来ない。

丸田 ストップ！ストップ！暴れ馬か。

木下 普段から厳しく生徒に指導してるのに、こんなの見せたら私の立場があ。

あぁいつたいどうしたらいいのでしょうか！

丸田 知るかっ！ほら早く行った行った！（木下を追いやる）

木下 ああく先生助言をください。どうかお願いです。

S・学校の廊下

ドアを開けた瞬間に、今とは別人の厳格教師に切り替わる。

木下 貴重なお時間を有り難うございます。失礼します。

木下退場。

丸田 さてと。

丸田は奥からラジカセを出し曲をかける。

M・ラジカセ体操

曲に合わせてラジカセ体操かと思いきや踊りだす。そこに西宮登場。

西宮 失礼しま……。

啞然とする。丸田は一通り踊れてすっきり。

丸田 ふう！・（生徒に気づき）ああ、どうも！

西宮 何ですか今の……。

丸田 僕のラジオ体操。

西宮 ラジオ体操！めっちゃめっちゃクラシックバレエじゃないですか！

丸田 最近始めたんだよね。始めて一週間なの。

西宮 一週間！？

丸田 はは、ここに座っていいよ。（西宮が座って）名前は？

西宮 三年の西宮です。

丸田 （バインダーと体温計を渡す）ここに書いといて。

丸田が奥で紅茶の準備。西宮は記入。

丸田 紅茶飲むー？

西宮 え？ああ……はあ。

沈黙。

丸田 マグロ食べるー？

西宮 食べませんよ。何で保健室にマグロがあるんですか！？

丸田 僕の朝ごはん。

西宮 ええ。しかもマグロと紅茶って絶対不味いからあ！……

よくクビにならないですね。

丸田 先生だからって勝手なイメージ作ってるのはそっちでしょー。

こんなことで怒ってたら、お肌が荒れるわよ★

西宮 少し黙っててもらえます？

丸田 はーいわかりましたー。

丸田は体温計を預かる。記入されたバインダーを見る。

丸田 朝練してる時から具合悪くなったんだ。どう練習は。

西宮 結構ハードです……。

丸田 授業出れないなら朝練休めばいいのに。

西宮 いやあー二年のオーデイション練習に付き合っただけじゃないと。

丸田 オーデイション？

西宮 次の大会、一々二年はオーデイションで選ばれないと踊れないんですよ。

だから後輩たちは、これに懸けてるんです。

丸田 へえー。上手いやつとかいるの？

西宮 いますよ。たまに保健室に来てると思う。

丸田 え？

杏子登場。

杏子 丸田先生やつほーっ！あれ？西宮先輩だ！

こんなとこで何してんですか？！

西宮 ちよつと怠くて来た。

杏子 (小声で)丸田と一緒にいるほうが怠くないっすか？

丸田 おーい目の前で悪口なんていい度胸じゃないかあ。

杏子 はは！ごめん先生！んじゃ教室行ってくる〜。

丸田 お！珍しい！あいつらとうまくいったんだな。

杏子 (とびつきりの笑顔)じゃーねー。西宮先輩さよなら！

杏子退場。

丸田 ……え。あいつ？

西宮 はい。

丸田 はあー、この間まであんなこと言ってたのに。

西宮 杏子すごいんですよ。最初全然踊れてなかったのに、
どんどん上手くなっていくんです。

部活は真面目にやってるから顧問も期待してて。

丸田 そうなんだ。(作業しながら)でもあれだね。

すごいというけどあんまりって感じだね。

西宮 何がですか？

丸田 君、杏子のこと苦手でしょ？

西宮 ……。

丸田 ちよつとトイレ行ってくる。もし誰か来たら適当に言っておいて。

丸田は一度その場から離れて退場。

S・運動する生徒の声

静かに時間が過ぎていく。西宮は考え事。丸田が戻ってくる。

丸田は自分の机に座り、作業する。しばらくしてから

西宮 先生。

丸田 んー。

西宮 誰にも言っていないんですけど…私、次のダンス部の大会…
出るの辞めようと思って…。

丸田 ……なんで？

西宮 ……気持ちがついてかないっていうか。中途半端で……。

こんな気持ちで踊るのも皆に申し訳ないっていうか……

丸田 ふうん……。

西宮 後輩の練習付き合ってたから、自分何様なんだろうって思えてきたんです……。

丸田 もしかして君が練習に付き合ってる後輩って……杏子？

西宮 (頷く) 杏子は……ちゃんと努力して練習してきたのが分かるから、皆からも

信頼されてるんです。それに比べて私はセンスがないから、先生から褒められる
ことはない。あの子みたいに、素直な気持ちで踊れないんです……。

丸田 君は普段、そんなに練習してないの？

西宮 ……してません。

丸田 だよ。いや、なんかさ、なんでセンスがないって決めつけるのかなあつて。

センスなんてのは、自分じゃ分らないもんだよ。

それにさ……誰かに褒められるって、そんな大事なことかな。

西宮 ……。

丸田 君にとつてダンスって、そんなもんなの？

西宮 違う！……違いますよ。

そこに木下が泣きながら走って登場。西宮がいることに気づいていない。

木下 丸田先生っ！先生、先生、先生えっつ！

丸田 なーに今度はあ。さつき来たはっかでしょう？

木下 私やつぱり出来ません！私よりはるかに上手い生徒たちを見てたら

自信がなくなつてしまつて、「これから自習にします。けれど、ダンスに
関することだけを自分たちで考え、創作するのです！」

と言つて、抜け出してきちゃいましたっ！

丸田 あららら。バレたら大変ですねえ。もうバレてますけど。

木下、ここでやつと生徒がいることに気づく。いや、気づいてしまう。

木下 !? 西宮さん……っ! あああああつ。(うな垂れる)

丸田 先生ドンマイ。(生徒に)これが先生の本性。

西宮 ええええっ!?

木下 ああああもう終わりですううう!

木下ベッドに倒れこみ次第に暴れだす。丸田は慌てて止めに入る。

丸田 ああ! せつかく綺麗にしたのに!

木下吹っ切れて保健室内を気が狂ったかのように暴れまわる。棚に飾つてある大きな折り鶴を持ち出し、丸田はそれを食い止める為にある提案をする。

丸田 そうだ! 西宮ここで踊りなよ。

西宮 は?

丸田 木下先生! 彼女はダンス部なんです。是非参考にしてください。

木下 いいんですか?!

丸田 (西宮に)俺たちでここどかさからさ。踊って見せてよ。

木下 良いですね! 是非勉強したいです!

西宮 ちよっと待つて! なに無茶なこと言ってるんですか。

さつきから言ってるでしょう!

軽い気持ちで踊ったらみんなに悪いし、私に才能なんてないから……

丸田 俺が！君の踊りを見たいんだよ。君がそこまでいうなら、そのダンスにかけた想いを、ここで証明してみせてよ。

西宮 ……。

丸田 先生手伝ってください。

木下 はい！

先生二人はテーブルやソファ、物をどかし始める。西宮は考えた末、柔軟を始める。先生たちは、物をどかし終えたら、ベッドに座る。

丸田 じゃあ曲かけるぞ。君も知ってる曲だ。

曲が流れる。

西宮 この曲…。

西宮は踊る。そこに練習を頑張る杏子の姿を思い出す。

杏子登場。ダンス練習をして、誰かに褒められてる様子。

純粹な彼女の姿は今の西宮を苦しめる。全ての想いをのせて。

彼女は苦しみながらも踊りきる。杏子はいつのまにか消えていた。

木下は拍手する。

木下 これ二年前に文化祭で踊ったやつでしょう？！ソロで踊ってたのが一年生だつて

聞いてたけど…あなただったのねえ。とても素敵だったわあ！

西宮はやりきった気持ちが入みあがる。

西宮 私、杏子のこと憧れてます。年下なのに上手くて……でも……

どんどん上手くなつてく杏子に嫉妬してる自分もいて、そしたら思うように踊れなくなて……先輩なのに情けない……こんな自分が大嫌い。

自然と涙が出る西宮。なぜか木下貫い泣き。

丸田 憧れてもいいじゃん。そういう存在がいたから、

毎日努力してきたんじゃないの？俺にだつているよ。憧れてる人。

木下 そうなんですネ。

丸田 「その人のようにになりたい」って思えたら、希望が持てるからね。

後悔する前に、自分の気持ちと向き合うべきだよ。

西宮 ……やっぱり踊りたいです……踊りたい！

丸田 うん。それでいいんだよ。

西宮 (照れる) ……顔がボロボロなのでトイレ行つてきます。

丸田 へい。いつてこーい。

丸田と木下はテーブル等をもとの位置に戻す。西宮、その場から出ようとする。

ドアで立ち止まり

西宮 ……先生は、後悔したことがありますか？

丸田 うん。勿論。

西宮 ……。

木下 ほら。私もこんなだから一緒にトイレに行きましょう！いやあ本当にさつきは

よかつたわよ！私もあんな風に踊りたいわ！

二人退場。保健室に残った丸田。ラジカセから音楽をかける。

M・What a wonderful world

静かになったところで紅茶を飲む。それはどこか寂しげである。
暗転

【 第三幕 】

2012年 秋。学校の放課後。昔の保健室。物が少なくて地味。
そこに鶴本登場。疲労が溜まつてるようでも眠そう。ベッドで寝る。
しばらくして丸田登場。

丸田 えっと次やるのは……

さつきまでの丸田とは違って、とても真面目で堅物そうな感じ。

鶴本は丸田に気づき、ベッドから驚かそうとする。丸田がテーブルに近づくと……。

鶴本 うわーっ！

丸田 うわあああ！もくやめてくれよお。先生がいない時は勝手に入るなって、

何度も言ってるだろう。

鶴本 丸田先生え疲れたまってるね。そんなに疲れてたら、お肌が荒れるわよ★
丸田 話を流すな。

鶴本 せっかく保健室にいるんだからさあ、もっとリラックスしないと。

丸田 先生には相当癒しが必要だね。

丸田 あー、東京スカイツリー行けば？五月に出来たじゃん！

丸田 そんなの興味ないよ。

丸田 じゃあストレッチ！ギンガムチェック聴きながら！

丸田 いやーAKBの総選挙も、大島優子が一位をとる時代ですか。

丸田 先生はあつちゃん派？優子派？

丸田 話の趣旨がずれてるよ。

丸田 ああそうだった。うーん……。わかった！丸田先生ここで、紅茶飲めば？

丸田 はあ？何を言ってるんだ。

丸田 だつて紅茶つて、リラックスができる効果が含まれてるんですよ？

丸田 保健室の先生が優雅に紅茶飲んでるなんて、おしゃれじゃん。

丸田 彼の先生たちに何言われるか分からないだろう。

丸田 そんな酒飲むわけじゃあるまいし。いいんじゃない？

丸田 そうでもないかと、丸田先生がぶつ倒れちゃうよ。

丸田 ……それもそうだなあ。

丸田 丸田先生、紙 ちょうだい。今回は、（折り鶴指さして）

丸田 これよりも大きいの作りたいの。

丸田 （棚を指して）そこにある。勝手に使つて。トイレ行つてくる。

丸田 おー！ちょうだいこれ！ありがと！

丸田 鶴本は工作のためにハサミやセロハンテープを借りる。

丸田 丸田がトイレに行こうとしてドアを開けると

丸田 東堂先生が来る！

鶴本 え、まじ!？

丸田 とりあえず、ベッドに隠れる。

鶴本 あひやあ!

鶴本はベッドに移動しカーテンを閉めたところに、東堂登場。

東堂 失礼します。

丸田 どうも。あ、どうぞ中へ。

東堂 いえ、ここで結構です。今日も鶴本は来ましたか？

鶴本 (！：？)

丸田 ああ、お昼休みに来たかなあ。

東堂 そうでしたか……。またサボりに来てるようなら、丸田先生からも

強く叱ってくださいね。彼女がいると、保健室に行きづらいと言いに来る

生徒もいるんです。

丸田 へえ……。。

東堂 また鶴本が来るようなら、私に必ず報告してください。職員室戻りますね。

丸田 はい。

東堂 (散らかったテーブルを見て)最後に。ここは凶工室ではないんですよ。

丸田 あ。

東堂退場。少し気まずい空気。

丸田 もういいよ。

鶴本 タイミング最悪だわ。

丸田 相変わらず目つけられてるな？クラスで上手くいつてないのか。

鶴本 いやあ、一部が嫌がつてんじゃん？こんなだからさ。

丸田 そうか……。でも、少なくとも鶴本は、中学生らしくないよな。

少しぶつとんでるけど、考え方が大人びてる。話しやすいよ。

鶴本 逆に先生は世間体を気にしすぎー。それさえ無ければもつと楽だと

思うけどなー。ねえ、先生つてやりたいこととかないの？

丸田 うーん。そういわれてもな……。

好きでこの仕事やつてるからそれだけで充分かな。

鶴本 好きなのに、なんでそんな辛そうなの？

丸田 ……そう見える？

鶴本 見えるよ！なんで？なんで？（言い寄る）

丸田 ああ！子供には分からない事情があるの。そんなことより……

昨日も親御さん喧嘩してたか？

鶴本 ……うん。夜中まで大喧嘩してるから、全然眠れなかった。

丸田 そうか……。先生の心配はいいから。もう帰ったら？遅く帰ったら、鶴本まで

何か言われるかもしれないぞ。

鶴本 分かったよー。じゃあこれ、持って帰って家で作ってくるわ！

楽しみにしててね！

丸田 分かった分かった。

鶴本 あ、先生なんか袋ある？これじゃ持って帰れない。

丸田 あるよ。

鶴本 ちようだいちようだい！

丸田 はいよ。

鶴本は袋を受け取り工作道具を入れ、帰ろうとする。

鶴本 あ、丸田先生。私は紅茶のオールグレイをおすすめするよ。

飲みやすくして好きだから、家で飲んでみてねー！

鶴本退場。丸田は机の上にあった物を整理する。すると何かがないことに気づく。

丸田 あれ？どこいった。

■
上手から鶴本登場。下校中。鞆を見ているとあるものに気づく。

鶴本 ん？なんだこれ（中身を見て取り出す）やば！

紙と一緒に持ってきちゃった……明日渡すとか……流石にダメか。戻ろ！

鶴本、退場。

■
保健室。外は暗い。丸田と東堂が話している。鶴本登場。

ドアを開けようとするすると保健室から声がする。

東堂 先生の財布は見つかりましたか？

丸田 それがまだなんです。

鶴本はドアの前で二人の会話を聞く。

東堂 学校にいる間に無くなったんですよね？

丸田 そうなんです。といつても、持ち歩いてるわけではないから通勤途中に落としてしまったのかも……交番に行ってみようかな。

東堂 ……それ、ここで無くしたんじゃないんですか。

丸田 どういうことですか？

東堂 生徒が盗んだとか。

丸田 え！誰がそんなことを？

東堂 鶴本です。

鶴本 ……

東堂 よくここに来るじゃありませんか。

丸田 丸田先生が見てない隙に鞆から財布を盗んで

ちよつと待つてください。確かに彼女はよく保健室に来ます。

丸田 けど盗みをするような人ではありません。

東堂 どうしてそうと言いきれるんですか？あの子は、普段から良くない噂を

生徒から聞きます。ここに来る頻度が高く、元気な状態で来るんだから、

一番考えられるのは鶴本でしょう。

丸田 鶴本がここに来るのは体調不良だからです。

東堂 本当にそうかしら。

丸田 当り前じゃないですか！

鶴本は悲しくなり、ドア前に財布を置いてその場を去る。

東堂 すぐに先生方にも聞いて回しましょう。

丸田 待つてください！そもそもこれは僕の不注意です。職員用のロッカーに入れずここに持ってきた僕が悪いんです。そんな大事にしないでください。

東堂 それを確かめないことの方が大事ですーこの状況を、先生ちゃんと

把握してますか？もし本当に生徒が盗んだとしたら、これは事件なんですよ。

丸田 事件……。

東堂 とにかく、学年の先生方に報告します。

東堂退場。

丸田 東堂先生！……（俯くと同時に床にある財布を見つけける）

財布！なんでこんなところに……。

暗転。

■

現代に戻る。いつもの保健室。誰もいない放課後。星野登場。

星野 先生え。この間話したやつに行ってきましたよ。せんせえ？

そこにスーツ姿の女性、鶴本が登場。

鶴本 失礼します。

星野 うわっ！

鶴本 おおっ。

沈黙。

星野 す、すみません。失礼します……。
鶴本 あ、ううん。ごめんね。

星野退場。

室内を見て懐かしむ。昔鶴本が作った大きな折り鶴も残っていることを知り、
折り鶴を手取る。
そこに何も知らない丸田登場。

鶴本 !……丸田先生。

丸田 ……誰。

鶴本 ……いやいやいやいやいや。鶴本だよ! つるもと!

丸田 ……え? ……鶴本? あの鶴本か?!

鶴本 はい!

丸田 全然分からなかったぞー。え、その格好……就活か?!

はく。早いもんだなあ。元氣してたか。

鶴本 うん。……制服変わったんだね。さつき男の子が来たよ。

丸田 あーそれ星野だ。俺じゃなくて、あいつに話せばいいのに。

鶴本 丸田先生昔と比べて、笑顔が増えたね。生徒と仲良さそう。

丸田 おかげさまで。

鶴本 ……あれから七年経つからもういないかもって思ったけど……

異動してなくてよかった。……あのさ。

丸田 試してみたよ。

鶴本 え。

丸田 どうやったら癒されるのか。鶴本が、保健室来なくなつてから色々やってみたんだ。

鶴本 ……

丸田 当時の俺はさ、この学校に異動してきたばかりで、全然余裕がなかったんだ。誰かの力になりたくて養護教諭になつたのに、勝手にストレスだけが溜まつてた。うん。

鶴本 ……けど、気持ちになるときはあつたんだ。

丸田 ……鶴本と話してるときだよ。

鶴本 ……

丸田 でも大人にばかり気遣う鶴本の優しさに、俺は甘えてしまった。

鶴本 阿呆だつたなあ。

丸田 そんなことないよ。

鶴本 鶴本がここに來た理由は分かつてるよ。あのことだろうか？

丸田 (頷く)

鶴本 気にするな。鶴本は何も悪くない。

丸田 でも！…私はあの時、丸田先生から借りた物と一緒に間違えて

持つて帰つたの。すぐ学校に戻つて保健室まで行つたのに…

丸田 ちゃんと丸田先生に謝れなかった…。

鶴本 ……あの時の、俺と東堂先生の会話、聞いてたのか。

丸田 ……ごめんさい。

丸田 ……大人の都合で、鶴本の青春を台無しにしてしまったな。本当に申し訳ない。

鶴本 (頭を下げる)

丸田 先生やめて。

丸田 鶴本が財布を盗んだなんてこれっぽちも思つてない。ただ先生たちにその誤解を解くのに時間がかかつてしまった。…すまなかつた！

鶴本

いいの！そんなことより……ずっと謝りたかったの。謝りたかったけど……先生に会う勇気がなくて……迷惑ばっかかけて本当にごめんなさい！

頭を下げる鶴本。いたたまれない気持ちの丸田。

丸田

……あの件で俺は……養護教諭を辞めようとしたんだ。生徒一人救えない俺にその資格がないと思った。……けど……

鶴本

……なに？

丸田

……本当は……何も飾らない、好きに生きる鶴本のように俺もなりたかった。それが俺のやりたかったことだったんだ！

鶴本

……。

丸田

周りから先生らしくないと言われても、どう思われてもいい。俺は俺なりに生徒に向き合って、絶対救う！その為に自分のことも大切にしようと思ったんだ。自分らしく生きることに決めた、今の俺が……これだ！

丸田、派手なジャケットを着る。

鶴本

……ダサッ。

丸田

これで仕事している。

鶴本

嘘でしょ！？丸田先生そこまで変わっちゃったの？！

丸田

鶴本が懂れだからね。……でも……まだまだ鶴本のようにはなれないな。

鶴本

待つて誤解うむでしょこれ！私のどこに懂れてそうなんだしく！

丸田

……良いよ。これが今の先生なんだね。本当の丸田先生が知れて嬉しい。

丸田

鶴本ちよつと待つて。

丸田は奥に入る。鶴本がその場で待ち、しばらくすると紅茶を片手に丸田現る。

丸田 鶴本。紅茶、飲むか？

丸田は紅茶のカップを見せる。

鶴本 それ……！

丸田 お前の好きなアールグレイだ。

鶴本は笑いと感動に包まれる。時を超えて、今、紅茶で再会を祝う。
本当に不思議なティータイム。

幕